死者の招き

水木しげる

ああ　やっと
宿についた

すみません
満員ですだ

満員ですといったってこの山の中にはここしか宿はないじゃないか土間でもいいとまらせてくれ明日は朝早く山へ登るんだから……

でも……
だめか予約しておかなかったのが悪かったんだな

仕方がない野宿でもしよう

だんなー
何だあ

いたたまれない気持で部屋の中を調べてみたが鍵のかかった戸のほかは別に変わったこともなかったあまりガタガタ音をさせるので　宿の亭主がやって来た

山でそうなん
しなすったらしい
いま　そうさく
隊を出そう
と相談して
いる
とこ
ろ
です
いや
いなけりゃ
いいんだ
明かりを
消すと
急に
ひんやり
としてきて
何となく
生きるのが
いやになって
くるのだ
心の中に
別な心が
入り込んで来る
ような気持だ
坂道を
汗だくで
登る
馬
あんなにして
あがき登って
みたと
ころで
何に
なる
んだ
山の上まで
登りきって
みたところで
別にいいこと
があるわけ
でもない
……
人生も
そんな
もんだ
……
そう
いえば
げんに
おれだって
マンガを
書いてる
が
いつ
仕事が
なくなる
か分かった
ものではない

「精神一到
何ごとか
ならざらん」
というが
最後の
ゴール
なぞ
誰も
知って
やしない

努力……
鍛錬……
労苦の
何という
愚しさ
……
快楽の
空しさ
高尚な
生活の
くだら
なさ……

すべては
空しい
のだ……
宗教は
こども
だましに
すぎない
……

人生は
おそろし
い　まや
かしに
すぎな
いのだ
……

真実な
ものは
死
だ
け

そこには
ガンも
なければ
歯痛
もない
食う心配
もなければ
絶望も不安もない

さあ
いこう
幸福な
死の
世界へ

それは
奇妙な
説得力
を持って
いた……

それなら
なぜ
死の来る
のをぼん
やり待って
いるのか
……

ガバッ
そう
だ

おれは
なぜこんな
単純な
人生の
真理が
分からな
かったの
だろう

早く
いこう

幸福の
待っている
国へ

ガラッ
あっ!

どうも
ようすが
おかしいと
思ったら
……

東京のお方
しっかり
しな
せい
人生
は楽し
いぞな
あっ!?

自殺なんかやめなされ
自殺?

夢の中で妙な気持になったことはおぼえているが……

まさか正夢だとは思わなかった

親父こりゃあきっとこの部屋に原因があるぞ

こりゃあ何だ

炭つぼです

この押入れはどうしてあかないんだ

鍵でもかかってるんだべ

ガラガラ

うわーっ!

首つりだ

ぼかあ野宿でもするよそれにしてももうちょっとで死霊(しりょう)にあの世へさそわれるところだった

完